

# ドイツの切手に現れた科学者、技術者達(32) フィリップ・フランツ・フォン・シーボルト

*Scientists and Engineers in German Stamps (32). Philipp Franz von Siebold*

筑波大学名誉教授 原田 馨  
KAORU HARADA

*Professor Emeritus, University of Tsukuba.*



シーボルトの肖像。



ヴュルツブルクのシーボルト博物館に展示されているシーボルトの胸像。

## フィリップ・フランツ・フォン・シーボルト

フィリップ・フランツ・フォン・シーボルト(Philipp Franz von Siebold, 1796—1866)、ドイツの医者、博物学者、日本研究者。

南ドイツのヴュルツブルク(Würzburg)に生まれ、多くの医者、生物学者を輩出したシーボルト家の出である。2歳の時、父ゲオルグ・クリストフ・フォン・シーボルト(医学部教授)の死亡により、ヴュルツブルク近郊ハイディングスフェルトの牧師であった母方の叔父のもとで育った。ヴュルツブルク大学で医学を学んだ後、2年間ハイディングスフェルトで開業医とし働いたが、在学中より東洋研究の志しがあり、1822年オランダ領東インド陸軍病院附属外科少佐としてジャワに赴任した。1823年には長崎、出島のオランダ商館の医師として働くと共に日本について研究し、資料を集めることを命ぜられた。長崎では幕府の許可を得て長崎郊外の鳴滝に診療所兼学塾を開き、医療、自然科学を教えるかわり日本の自然、人文資料を集めて研究した。種々の資料には、塾の学生たちの宿題または論文として提出させたものもある。シーボルトは商館長と共に江戸に参府し、東海道や江戸についての観察記録も残している。1828年までの在任期間に多くの資料を集めたが、その中に国外持ち出し厳禁の日本地図があることを発見され、シーボルトは日本から追放されることになった。これがいわゆるシーボルト事件である。

帰国後は、オランダのライデンに住み日本から持ち帰った資料を整理し目録を作り、日本に関する著作「日本・日本とその隣国及び保護国蝦夷南千島列島樺太、朝鮮琉球諸島記述記録集」を発表した。この著作は、オランダ語、フランス語、ロシア語に翻訳された。他に、「日本植物誌」や「日本動物誌」などの著作がある。これらの出版物は、西欧世界にはじめて遠い神秘的な日本を印象づけた。現在ライデンの植物園には、シー

ボルトが持ち帰った植物の幾つかが保存されており、彼の記念像もある。民族学博物館には、同じく彼が持ち帰った日本の民具の大規模なコレクションがある。ライデンには、「DECIMASTRAAT」(出島通り)など日蘭交流の歴史をしのばせる名のついた通りがある。

オランダとの新たな通商条約締結によりシーボルトに対する追放令は解除され、開国後の1859年シーボルトは、息子アレクサンダー(Alexander Georg Gustav von Siebold, 1846-1911)と共に再び日本を訪れ幕府の顧問となった。またアレクサンダーは、後に日本政府の外交官となり日本の外交交渉に貢献した。シーボルトは1863年に多くの収集品と共にヴェルツブルクに戻り、1866年に敗血症で死亡した。

生誕地ヴェルツブルクには、シーボルト通りがあり、その北端の樹々に囲まれた小さな公園にシーボルトの立派な記念像がある。ひげを生やし胸に勲章をつけた老齢で厳めしい顔をした胸像の台座は、四人のエンジェルに囲まれている。そのうちの二人はヨーロッパ人の顔をしたエンジェルであるが、他の二人は東洋人の顔をしている。また1995年に「シーボルト博物館」が設立され、日本から持ち帰った品々が展示されている。ウィーンのシェーンブルン公園の植物園のそばにシーボルトの記念碑がある。

シーボルトの墓はミュンヘンの旧南墓地にあるが、これは日本風の、しかし日本のものに成りきっていない興味深い墓石である。墓石には、「Erforscher Japans」(日本研究家)と云う文字と共に「強哉矯」(中国の古典「中庸」の一節)の文字が刻まれている。 ※本稿に掲載の写真は、著者の撮影によるものである。



ヴェルツブルク、シーボルト通り北端の小公園に立つシーボルトの胸像。



胸像の台座のまげを結ったエンジェル。



胸像の台座の笠をかぶったエンジェル。



ミュンヘン旧南墓地にあるシーボルトの日本風の墓。



墓石には、「Erforscher Japans」と「強哉矯」の文字が刻まれている。



ウィーンのシェーンブルン公園の植物園そばにあるシーボルトの記念碑。



記念碑のシーボルトの拡大写真。



ヴェルツブルク中央墓地を出てしばらく行くと「シーボルト・ギムナジウム」と云う学校の標識がある。シーボルト家の学問的功績を記念している。

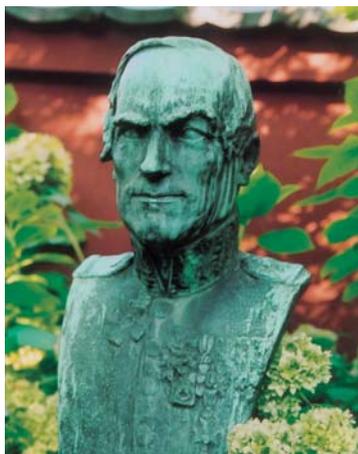
# ドイツの切手に現れた科学者、技術者達(32) フィリップ・フランツ・フォン・シーボルト



生誕200年記念切手。日本とドイツで同じ図柄で同時に発行された。1996年、日本発行。



生誕200年記念切手、1996年、ドイツ発行。



ライデン植物園にあるシーボルトの記念像。



ライデン植物園にあるシーボルトが日本から持ち帰った植物。



ライデンにある「DECIMASTRAAT」(出島通り)の標識。



ヴェルツブルクにあるシーボルト博物館の玄関前に立つ著者。

## 訃報

長年に亘り本誌にご執筆くださいました、筑波大学名誉教授 原田馨先生には平成22年11月20日ご逝去されました、享年83歳。ケミカルタイムズへの多大なご貢献に感謝し、謹んで哀悼の意を表します。

## 表紙写真

### ミヤマダイヤモンドソウ(深山大文字草) ユキノシタ科 ユキノシタ属

名前の由来は、写真を見ての通り5枚の花弁が赤や黄色の萼を中心に、漢字の大きな字をかたどり、そこから大文字草と呼ばれますが、これ程覚えやすい例にはありません。高山の小型のものにミヤマをつけて呼びますが、麓の大文字草と明確な区別は無いようです。撮影は8月上旬、北アルプス双六岳付近で、花の長径は3cm前後です。(写真文 北原音作)

## 編集後記

松の内が過ぎて、皆様におかれましては、良い年をむかえておられることと拝察します。

この度、原田馨先生ご逝去をお知らせすることとなり、大変残念に思います。原田先生には、本誌1993年No.1(通巻147号)から長期に亘りドイツ科学史に関する論文を多数ご執筆いただいております。

原田先生の本誌へのご厚誼に心からお礼を申し上げ、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

本誌では、鶴飼先生の「フラットパネルディスプレイ

概論(3)」、窪田先生の「膠原病におけるNF-κB経路」、妹尾先生の「電子、分子、超分子コロイド-物質要素の三階層-」、齋藤先生の「百日咳の検査学的診断」、原田先生の「ドイツの切手に現れた科学者、技術者達(32)フィリップ・フランツ・フォン・シーボルト」ならびに表紙写真ギャラリー(2)を掲載させていただきました。なお、本誌編集委員会は、昨年末にて下記へ移転しました。

皆様の本年のご健勝とご多幸を祈念します。



関東化学株式会社

〒103-0022 東京都中央区日本橋室町2丁目2番1号  
室町東三井ビルディング  
電話 (03)6214-1050 FAX (03)3241-1007  
インターネットホームページ <http://www.kanto.co.jp>  
編集責任者 原田 義美 平成23年1月1日 発行